

# 鹿男あをによし

新学期が始まって1ヶ月、ゴールデンウィークはゆっくりすごせましたか？

4月29日に近鉄観光特急「あをによし」がデビュー。大阪難波、近鉄奈良、京都の3駅を乗り換えなしで結びます。スナックカーの名前で親しまれていた12200系を改造してつくられた「あをによし」。外装が塗り直されたのですが、「冠位十二階」で最上位とされた紫色「紫檀メタリック」の色がとってもすてき。先頭車両のエンブレムには奈良時代の吉祥文様「花喰鳥」のモチーフ、内装は座席や床に正倉院の宝物に描かれた花や草の模様があしらわれているそう。これでもか！というほどの豪華で気品漂う雰囲気です。名前の「あをによし」は、奈良にかかる枕詞。「青丹よし寧楽（なら）の都は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり」という小野老（おののおゆ）が詠んだとされる望郷歌が、現存する最古の歌集・万葉集に収められています。「あをによし」で私が思い出すのはやっぱり万城目学の『鹿男あをによし』。1作目の『鴨川ホルモー』を初めて読んだとき衝撃を受けましたが、続く『鹿男あをによし』も奇想天外でテンポがよくておもしろく感じたのを覚えています。奈良が舞台の『鹿男あをによし』はドラマ化、『鴨川ホルモー』（京都）と『プリンセス・トヨトミ』（大阪）は映画化されているので、見たことがある人もいるかもしれませんね。小説とは少し設定を変えているところもありますが、万城目ワールドを実写化させたのはすごいなあ、と思います（関西ではありませんが『パベル九朔』もおもしろかったです）。「奈良では鹿に乗って移動するんです、マイシカ。」と真面目に言われると、ほんとにそうなのか？と疑いながらも（ちょっとありえる...）と思わせてしまう街、奈良。歴史ある土地が舞台になっていることで、現代なのにどこかファンタジーの世界のような雰囲気が出ているような気がします。平安京以前、数々の宮を有した奈良。平安京以後、日本の都としてあらゆるできごとの舞台となった京都。飛鳥時代には難波京、安土桃山時代には大阪城が築かれ、江戸時代には「天下の台所」と呼ばれる経済都市になった大阪。車窓からの景色を眺めながら、1400年の歴史を感じてみたいものです。奈良駅周辺の観光だけでも楽しそうですが、3月にオープンした天理市の「なら歴史芸術文化村」では文化財修復作業現場が公開されていたり、国内外から招いたアーティストとの交流もできるそう。考古資料が多い奈良にぴったりの施設、いつか行ってみたいなあと思います。

## 万城目学

1976年大阪府生まれ。京都大学法学部卒業。2006年にボイルドエッグズ新人賞を受賞した『鴨川ホルモー』でデビュー。2009年度咲くやこの花賞受賞。『かの子ちゃんとマドレーヌ夫人』『とっぴんぱらりの風太郎』『悟浄出立』など。

## 近畿日本鉄道

大阪府・奈良県・京都府・三重県・愛知県の2府3県で鉄道事業を行っている会社。日本の大手私鉄の1つであり、JR以外では最長の路線網を持つ。スナックカーとは車内でビュッフェ営業を行うための調理コーナーを設けた車両のこと。

